

7. 社会貢献

近年、大学の役割として、教育・研究に加え社会貢献が強く求められている。

本学では、2007年度から第4次「中期経営計画（マスタートプラン）」を推進しており、新たに経営理念「For all the students～すべての学生生徒のために」を定めると共に、経営目標を「情報・環境・モノづくり領域で教育研究力を発揮し、広く社会に貢献する。」と規定している。この経営目標達成に向けて、「学術支援機構」および「総合研究機構」を置き、それらを中心として以下に述べる教育面と研究面における社会貢献への施策を実施している。

その到達目標として、まず教育面では、社会のより幅広い層への生涯学習の実施とそれを通じた社会との文化交流により講座への満足度を高め、学園の支持を高めることである。一方、研究面においては、産学連携による研究を推進することによって、本学の研究成果を社会に還元・開示し地場産業との交流を深め、研究の実用化と地場産業の活性化を推進することである。

（一）大学全体

（イ）社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度

本学における社会との文化交流を目的とする教育活動については、各学部・学科等でそれぞれ特徴がある交流を実施していることから、（二）以下の該当する項で述べる。

なお、大学の直属施設ではないが、法人組織である学術支援機構に属する「エクステンションセンター」では、学生の資格取得支援教育と共に、市民を対象に生涯教育を行っている。また、同機構に属する「モノづくりセンター」では、学生の自由参加のもとに、本学教職員の指導・助言をも得て、モノづくり教育や環境教育の支援を行っていて、市民との交流を行ったり、市民からの支援・指導も必要に応じて仰いだりしている。これらの詳細については、**本章 16.（二）**に記述している。

（ロ）国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況

本学は、私立大学であることから、国や地方自治体等の政策形成に関しては、私立大学協会の協会員として、協会の活動を通じて寄与を行っている。

その他、学長や教職員が国の諸官庁や自治体からの依頼に応じて、関連する委員会等の委員として、政策形成に寄与を行っている。この実施例はかなり多数に亘るため、ここでこの例示は省略し、各学科の項で述べる。

（二）工学部

（イ）公開講座の開設状況とこれへの市民の参加状況

工学部では、「模擬講義」や「出前授業」といった形で、主に高校生やその保護者向けの講座を実施している（平成19年度は67件、平成20年度は63件）。これとは別に、生命環境科学科は文部科学省の推進事業であるサイエンス・パートナーシップにより、近隣の高等学校の生徒に化学、生物を中心とした理科の教育を課外で実施している。しかしながら、教員の学術に関する公開講座については、工学部もしくは学科主催のものは実施していない。各教員は教育、研究、学内運営に多忙であるため、公開講座を実現することは容易ではないが、今後検討する必要がある。

（ロ）教育研究の成果の社会への還元状況

工学部教員の社会貢献の多くは、所属する学会活動を通じてなされている。一部の教員は福岡県等公共団体の審議委員を勤めている。詳細は以下に記す。

(1) 電子情報工学科

- (盧 存偉) 文部科学書科学技術動向センター専門調査員
OSA アメリカ光学会など学会の論文査読委員
IWMIA' 06 組織委員会委員長
CGIM' 07 プログラム委員
電気学会全国大会実行委員
- (北川 興) 応用物理学会九州支部理事 (平成 18 年 3 月まで)
- (加藤 友彦) 日本物理学会九州支部例会現地実行委員 (平成 20 年 12 月)
- (善明 和子) 日本物理学会九州支部例会現地実行委員 (平成 20 年 12 月)
- (時田 正彦) 日本物理学会九州支部例会現地実行委員 (平成 20 年 12 月)
- (久保 英範) 日本物理学会九州支部例会現地実行委員 (平成 20 年 12 月)

(2) 生命環境科学科

- (大崎 知恵) 福岡県環境審議会委員 (04. 9. 18~06. 9. 17、06. 11. 26~)
福岡県公害審査会委員 (04. 1. 13~07. 1. 12)
福岡県国土利用計画審議会委員 (04. 1. 30~06. 1. 29、06. 1. 30~)
- (倪 宝栄) 応用物理学会九州支部役員
応用物理学会九州支部大会実行委員会委員
- (宮元 展義) Bull Chem Soc Jpn 誌査読員
Microporous and Mesoporous Materials 誌査読員
広域物性研究会最若手会組織委員
第 7 回高校生ものづくりコンテスト福岡県大会審査員 (2008 年 6 月)
- (太田 能生) 日本金属学会評議員
資源・素材学会評議員
日本金属学会九州支部評議員
資源・素材学会九州支部常議員
表面技術協会九州支部理事
腐食防食協会九州支部理事
- (北山 幹人) 米国セラミックス協会論文査読員
日本セラミックス協会論文査読員
Materials Research Society 論文査読員
American Chemical Society 論文査読員
資源・素材学会常議員
西日本腐食防食・表面処理技術協会九州支部理事
- (三田 肇) 生命の起原および進化学会運営委員 (2000~2009)・編集委員 (1994~)
日本惑星科学連合:教育問題検討委員 (2006~)、プログラム委員 (2006~)
International Symposium on Origins of Life and Astrobiology
(2005. 6 新潟市)
Local Organizing Committee Member
- (吉川 博道) 日本農薬学会評議員 (2005. 4~)
農芸化学会西日本支部評議員、(1998~)
日本農薬学会農薬環境科学研究会委員 (2005. 4~)
- (川上 満泰) 化学工学会九州支部幹事 (2001~)

(3) 知能機械工学科

- (阿比留 久徳) 日本機械学会九州支部商議員
日本航空宇宙学会関西支部幹事
- (河村 良行) レーザー学会九州支部委員
- (後藤 穂積) 日本機械学会基準 S015 フレッシング疲労試験方法改善原案作成委員会委員
学術誌“Weare”の論文査読者等
- (Shi-je Zhu) 日本材料学会 日中疲労に関する共同国際会議実行委員会委員等
- (仙波 卓弥) 砥粒加工学会理事
精密工学会九州支部支部長等
- (溝田 武人) 日本工学教育協会校閲委員
日本風工学会評議員
日本機械学会九州支部商議員
第 39 回スポーツ工学研究会 (兼ヒューマン・ダイナミクス研究会)
2009. 4. 4 実行世話人
日本機械学会スポーツ工学&ヒューマンダイナミクス 2009 (12. 3-5)
ジョイントシンポジウム実行委員長
AHLOS (非定常空気力学研究会・構造物の空気力研究会) 2009 実行世話人
- (村山 理一) 日本非破壊検査協会評議委員
日本非破壊検査協会九州支部商議委員
- (木野 仁) 日本機械学会ロボメカ部門第 7 部技術委員会副委員長
ロボット・メカトロニクス講演会 2008 プログラム委員
- (中西 剛司) 国際会議実行委員 (ICM Satrlitr Workshop)
- (藤山 博一) 福岡県金型研究会特別会員
- (天本 祥文) 日本機械学会九州学生界会員校顧問

(4) 電気工学科

- (今村 正明) Magnetism and Magnetic Materials 2005 (San Jose) 論文レフェリ
オレゴン州立大学工学部 (OR, 米国) 教員昇格外部レビュー (2005 年度)
日本応用磁気学会 2004 年度学術講演会実行委員 (H15. 10~H16. 9)
9th Joint MMM-IEEE Intermag Conference 2004 Paper Reviewer
米国スタンフォード大学客員教授
(2006 年度文科省大学教育の国際化推進プログラム)
米国オレゴン州立大学客員教授
(2006 年度文科省大学教育の国際化推進プログラム)
2008 年電気学会全国大会実行委員
- (師岡 正美) 応用物理学会九州支部大会実行委員 (2005 年 11 月)
電気学会全国大会現地実行委員 (2008 年 3 月)
- (大山 和弘) 電気学会調査専門委員会 (2006 年度)
平成 19 年東海支部若手セミナー講師
平成 15 年度能力開発セミナー講師
電気関係学会九州支部連合会、協議員
- (柏崎 英徳) 照明学会照明教育委員会照明教育専門員
照明学会九州支部評議員
平成 19 年度 (第 40 回) 照明学会全国大会実行委員会副委員長

- (高原 健爾) 電気学会査読委員 (C 部門)
日本健康科学学会第 23 回学術大会実行委員
平成 20 年電気学会全国大会幹事補
- (辻野 太郎) IEEE 査読委員 (05 年)
電子通信情報学会 査読委員 (05 年)
計測自動制御学会 査読委員 (05 年)
Asian J. Control 査読委員
Automatica 査読委員
平成 20 年電気学会全国大会実行委員
- (梶原 寿了) 電気学会教育研究技術委員 (2005 年度～2007 年度)
電気設備学会九州支部理事 (2007 年度～)
電気学会九州支部役員 (2007 年度～)
- (山口 俊尚) 電気学会論文査読委員
日本応用磁気学会論文査読委員

(三) 情報工学科

(1) 情報工学科

(イ) 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加状況

情報工学科では、「模擬講義」や「出前授業」といった形で、主に高校生やその保護者向けではあるが学外への公開講座を 9 講座開設し、昨年度は延べ 7 回の講座を実施した。本学科は、所属する教員が他学科の倍近い人数であるのに対し、講座数・実施数ともに他学科と同程度となっており、一部の教員が実施している状況である。

今後は学科としてより多くの教員に公開講座に参加してもらうような取り組みが必要であろう。

(ロ) 教育研究の成果の社会への還元状況

本学科では前述の「模擬授業」等を通して、情報工学の専門性を生かした興味深い講座を提供している。例えば、講座「音楽と情報処理技術」では、楽器演奏をコンピュータ上に記録する技術や、コンピュータによる自動作曲技術の紹介を行っている。受講者からは、普段から良く聴く音楽がどのような仕組みで出来ているのだろうかといった疑問が解決できたと好評であった。情報処理技術の学習への強い動機付けになると思われる。

また、講座「情報倫理：ネット社会を生きる皆さんに知って欲しいこと」では、パケットや IP アドレス等のネットワークの基本的な仕組みを分かりやすく説明し、それをふまえ、匿名といわれているネット掲示板への書き込み等が、実は技術的には特定が容易であることや、パソコンのセキュリティ対策が極めて重要であること等を解説している。保護者や、中学・高校教員をはじめとする学生受講者以外からの反響も多く、このような「教育者」に対する教育としても役立っていると考えられる。

近年、初等・中等教育において、理科・数学離れが進んでいることや、情報化社会の急速な進展に教育が追従できていないこと等が問題となっている。このような中で、高度な専門性を持った大学教員ならではの特色のある教育を、初等・中等教育の現場へ還元することも、今日の大学における重要な役割の一つであろう。

また、本学科の教員は、下記に示すような各種学会の誘致、学会役職等担当、学外における活動各種団体委員担当等、幅広く社会貢献活動を行っている。